学校法人 中越学園
長岡大学

文部科学省
地(知)の拠点

平成30年度 学生による地域活性化プログラム

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

鯉江康正ゼミナール
活動報告書

03
平成30年度

ご　あ　い　さ　つ

長岡大学　学長　村山　光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度の文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代ＧＰ）に選定された「学生による地域活性化提案プログラム―政策対応型専門人材の育成―」に始まり、平成25年度からは文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業）に選定された「長岡地域＜創造人材＞養成プログラム」の一環として、発展・継続して取り組んで参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムとして周辺地域における認知度がさらに高まってきていると実感しております。

長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、ひとえに地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。この取り組みが地域の活性化にまだ十分に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいた地域連携アドバイザーの方々だけでなく、地域のたくさんの方々からも各取り組みテーマに対するお問い合わせや激励のお言葉をいただいております。また最近では、取り組みの中心である学生の活動について新聞やテレビ等のメディアでも取り上げていただく機会が多くなりました。地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い地域課題に対して、それをどのように考え、どのように行動し、対応して行くのかを学生が自ら試行錯誤する中で体得していくことができます。本学を卒業して地域社会の一員となる学生が将来、地域が抱える課題に日々取り組んでいくことになると考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールで設定したテーマの下で学生がグループで活動を進めて行くことになりますが、時には活動で一緒になる地域の大人たちとの意見の食い違いや学生同士のちょっとしたすれ違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩成長するきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げることの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。長岡大学の建学の精神は、「幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進」と「地域社会に貢献し得る人材の育成」です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための中核となる教育プログラムであると言えます。

平成31年３月

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE
since 2004
II
UNIVERSITY
2016

長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年３月７日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

長岡大学教授／ゼミ担当教員　鯉江　康正

人口減少が進む新潟県内において、各自治体は地域社会を維持・継続させるために、防災対策、少子高齢化対策、産業振興策、教育・文化に関する政策、地域振興・まちづくり政策など様々な施策を実施しているが、その効果は限定的と言わざるを得ないのが実状である。そのような状況下において、外的な力で活性化を図ることは、一時的には効果が期待できるが、長期的な観点からは地域内部での自発的な協調・協力こそが地域を支える力となるものと思われる。

以上のような考えのもと、鯉江ゼミでは平成 19 年度から「まちの駅」の紹介、まちの駅が関係するイベントに参加してきた。平成 19 年当初は、長岡大学が「まちの駅　長岡大学」であるにもかかわらず、それを知る学生はほとんど皆無であったが、現在はほとんどすべての学生が「まちの駅」の存在を知っている。学生が提案した「まちの駅　長岡大学」としての社会への貢献として、トイレを貸すことはもちろん、図書館や学食の市民利用も可能となっている。高齢化が進み、商店街が疲弊していくなかで、学生が地域イベントには欠かせない集団となりつつあると自負している。

今年度も、新たに開設された県内の「まちの駅」を紹介するパネルの新規作成および更新をおこなった。この作業は、ルーティンワークであるが、一度とぎれさせてしまうと復活が難しいものであり、毎年必ず実施しているものである。また、新規・継続を含めて、まちの駅関連イベントとして、①第 21 回まちの駅全国大会 in 会津、②ＦＭながおかでの長岡市内のまちの駅 11 駅の紹介番組「長大生と行く！まちの駅ヒアリング GO ！！」、③長岡大学学園祭「悠久祭」での「まちの駅パネル展」、④「まちの駅＆どまいち　春の物産フェア（見附市）」、⑤「第 33 回田麦山ロードレース（長岡市川口地域）」、⑥「まちの駅 NW かぬまとの交流事業（長岡市越路地域）」、⑦「とうきび観音祭り（長岡市栃尾地域）」、⑧「オールにいがたまちの駅交流会（見附市）」、⑨「ハロウィンみつけ（見附市）」、⑩「ハロウィーンいままち（見附市今町地域）」など、様々なイベントに参加してきた。

10 年を超す長い活動を通して、学生が得てきたものは、「自分たちがこれまでやってきた活動に自信を持ち、それを伝える」ことが大切で、「地域活性化活動はやらされているのではなく自分たちから楽しんでやる」ことであるということであった。繰り返しになるが、少子高齢化が進み人口減少が避けられない地域において、地道な活動こそが地域を支え、真に豊かな「まち」を形成できる第一歩であると私は考えている。本取組はそれをまさに実践した活動報告である。

平成 31 年３月

学校法人 中越学園
長岡大学

文部科学省 地(知)の拠点

平成30年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

【参加学生】 13 名
4 年生　王巍　加藤茉那　Jargalsaikhan Byambatuvshin　新保聡
鈴木絵莉香　Gantumur Uugantsetseg　Tsogoo Munkhzaya
Khurelbaatar　Ganchimeg　李文秀
3 年生　小出優花　近藤孝洋　山城時生　Tamir Ariunaa

【アドバイザー】
全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営監事　中川 一男 氏
長岡市市民協働推進部市民協働課　主任　岩嶋 雄人 氏

今年も合い言葉は『GO！』　活動は楽しく。やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

①第 21 回まちの駅全国大会 in 会津

②ＦＭながおかでの長岡市内のまちの駅 11 駅の紹介番組
「長大生と行く！まちの駅ヒアリング GO！！」

③長岡大学学園祭「悠久祭」での「まちの駅パネル展

④「まちの駅＆どまいち　春の物産フェア（見附市）」

⑤「第 33 回田麦山ロードレース（長岡市川口地域）」

⑥「まちの駅 NW かぬまとの交流事業（長岡市越路地域）」

⑦「とうきび観音祭り（長岡市栃尾地域）」

⑧「オールにいがたまちの駅交流会（見附市）」

⑨「ハロウィンみつけ（見附市）」

⑩「ハロウィーンいままち（見附市今町地域）」

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、
交流人口の増加に寄与したい！

鯉江康正ゼミナール

15K014 王　巍
15K029 加藤茉那
15K059 ジャンガルサイハン・ビャンバトゥブシン
15K061 新保聡
15K062 鈴木絵莉香
15K401 ガントゥムル・ウーガンツェツェグ
15K403 ツォゴ・ムンフザヤ
15K404 フレルバートル・ガンチメグ
15K405 李文秀
16K028 小出優花
16K033 近藤孝洋
16K071 山城時生
16K035 タミル・アリョーナー

目　　次

1. 調査・研究の目的 1

2.「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要 3
2.1 「まちの駅」の歴史と概要 3
2.1.1 「まちの駅」の歴史 3
2.1.2 「まちの駅」の概要 4
2.1.3 道の駅とまちの駅の違い 6
2.2 過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要 6

3. 第21回まちの駅全国大会in会津 10
3.1 概要 10
3.2 参加目的 10
3.3 活動概要 11
3.4 まとめ 16

4. FMながおかラジオ 17
4.1 概要 17
4.2 まとめ 19

5. 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成 21
5.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順 21
5.1.1 パネル作成から完成までの手順 21
5.1.2 パネルの紹介 22
5.2 悠久祭 29
5.2.1 パネル展 29
5.2.2 まとめ 29

6. 地域活動への協力 30
6.1 まちの駅＆どまいち　春の物産フェア 30
6.1.1 概要 30
6.1.2 まとめ 31
6.2 田麦山ロードレース 32
6.2.1 概要 32
6.2.2 まとめ 32

6.3　まちの駅 NW かぬまとの交流事業 33
6.3.1　概要 33
6.3.2　まとめ 34
6.4　とうきび観音まつり 35
6.4.1　概要 35
6.4.2　主な活動内容 36
6.4.3　参加目的 36
6.4.4　まとめ 37
6.5　オールにいがたまちの駅交流会 38
6.5.1　概要 38
6.5.2　まとめ 38
6.6　ハロウィンみつけ 40
6.6.1　概要 40
6.6.2　主な活動内容 40
6.6.3　まとめ 41
6.7　ハロウィーンいままち 42
6.7.1　概要 42
6.7.2　主な活動内容 42
6.7.3　まとめ 43

7.　中間発表会・成果発表会 44
7.1　中間発表会 44
7.2　成果発表会 45
7.3　まとめ 46

8.　越後ながおかまちの駅ネットワーク　忘年会 47

9.　ウェブページの更新 50

10.　とりまとめ 51

謝　辞 53

参考文献 53

１．調査・研究の目的

平成 30 年 12 月 3 日現在の時点で新潟県内の「まちの駅」の開設数 129 駅であり、昨年度より１駅減った。県内の主要なネットワークは、越後ながおかまちの駅（61 駅)、まちの駅ネットワークみつけ（41 駅)、まちの駅ネットワーク糸魚川（10 駅)、まちの駅ネットワークごせん（４駅）であり、それ以外にも個人・法人が独自に開設しているまちの駅がある。

昨年度の鯉江ゼミナールでは、『「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献』をテーマとして、新潟県のまちの駅の調査・研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。今年度は、『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！』をテーマとして活動を行った。その目的は活動を通して地域を盛り上げ、交流人口の増加に寄与することである。

まちの駅の調査研究では、各まちの駅へのヒアリング活動を行い、その調査内容をパネルとしてまとめる。そして、パネルは、学園祭（悠久祭）や、地域活性化活動で展示したり、長岡大学のホームページに掲載したりして、多くの人に「まちの駅」を知って頂くことを試みている。そして、まちの駅を知った方が、まちの駅とその地域に足を運んでくれることを期待し、地域を盛り上げていくことを目的とする。

地域活性化活動への協力では、まちの駅を通じて様々な地域イベントに参加をした。地域のお祭りのお手伝いや、昨年度作成した越路マップを基にボランティアガイドを行う活動などに参加した。地域を盛り上げることと、地域の方々との交流を深めることを目的とする。加えて、上記の活動を通じて「まち」への理解を深め、新たな地域活性化活動の方法を模索する。そこから更なる地域活性化へ繋げていくことも目的とする。

今年度のヒアリング調査では、長岡市１駅、見附市４駅の合計５駅のまちの駅にヒアリングを実施し、ヒアリング調査後に作成したパネルは、学園祭（悠久祭）のパネル展での展示と長岡大学の地域活性化プログラムのホームページに掲載することで情報発信をしている。

今年度は地域活性化活動（ボランティア）として、６つの活動に参加した。例年参加している「まちの駅&どまいち　春の物産フェア」「とうきび観音まつり」「ハロウィンみつけ」「ハロウィーンいままち」の４つと、今年度からの「NW かぬまとの交流事業」「田麦山ロードレース」の２つである。また、今年度初めての活動として、FM ながおかでのラジオ番組の作成、オールにいがたまちの駅交流会、まちの駅全国大会 in 会津へも参加した。

本報告書の構成は以下の通りである。

第２章では、まちの駅の歴史と概要、鯉江ゼミナールが過去に行ってきたまちの駅の調査・研究活動について紹介する。

第３章では、全国からまちの駅の駅長さんが集まる「第 21 回まちの駅全国大会 in 会津」について、フォーラムの流れ、参加したプログラムについて紹介する。

第４章では、まちの駅の情報発信活動として行った FM ながおかでのラジオ番組について紹介する。

第５章では、まちの駅におけるヒアリング調査と、パネル作成、学園祭（悠久祭）でのパネル展について紹介する。

第６章では、まちの駅を通じた地域活動への協力について紹介する。

第７章では、活動の成果を紹介する、中間発表会および成果発表会について紹介する。

第８章では、越後長岡まちの駅ネットワークの忘年会の様子とそこから得られたものを紹介する。

第９章では、まちの駅の紹介パネルを掲載するホームページの更新について紹介する。

第 10 章では、活動の振り返りと来年度の展望を述べ、とりまとめとする。

２.「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

2.1　「まちの駅」の歴史と概要

2.1.1　「まちの駅」の歴史

本節は、「まちの駅足かけ 20 年のあゆみ」（文献３）を参考にまとめたものである。

「まちの駅」は、「まちの案内所」「地域の茶の間」として、既存の施設、空間（公共施設・民間施設）を自発的に開放する活動として、平成 10 年からスタートした。各地の「まちの駅」では「郷土愛」や「人間愛」をもった駅長・駅員（まちの案内の人）が、地域の人や来訪者を「もてなしの心」で迎えるとともに、地域のちょっとした魅力を発信している。駅のネットワークにより地域全体の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅同士の交流・連携が進められている。

「まちの駅」は、「道の駅」の発想から変化していったものである。「道の駅」は道路空間の一部と位置付けられ、国道・新幹道路沿いに設置される公共インフラとしてスタートしたので、国道沿いに使える土地がない場合や、国道沿いではない場所に作りたいと考えても、「道の駅」は作れない。また、地域連携軸の構築という考え方の中で、「道の駅」が地域間連携の拠点となる機能を果たすと考えていたから、「道の駅」を設置できない市町村では、同じ機能を果たす「連携センター」を作る必要があると考えた。そこで、一市町村一箇所の設置を想定して、平成 10 年に「連携センター」の仮設実験を行った。新たに整備するための助成制度もなかったので、既存の公共施設を活用・開放して、その中に「地域連携機能」を置くという考えた方であった。中部横断自動車道の早期完成を求める静岡・山梨・長野の 33 の市町村で形成する「中部西関東地域連携軸協議会」では、市役所や公民館、ホールなどを活用して、「連携センター」の実験を行い、地域連携軸の形成も検討された。また、「連携センター」の正式名称を公募ガイドで募集したところ、2,700 もの応募があった中で、シンポジウムの中でも議論され、その結果「まちの駅」の名称を使うことに決定された。

その後、富山県高岡市の伏江努氏から株式会社として「まちの駅」に参画したいという要請があり、民間経営第１号の「まちの駅たかおか」が生まれた。

官の中に民間の発想や運営原理が入ると、議論のあり方が変わっていく。さらに、福岡県甘木・朝倉地域の上野春樹氏、手嶋隆行氏からは、「まちの駅」を街中に多数作って日常的に人が交流できる語らいの場にしたいという提案が出された。新しい発想を得て、「この指とまれ方式」で、商店や民間施設も含めた公募による「まちの駅」の実験事業が、21 施設の参加を得て行われた。その結果、多くの賛同を得て、民間施設の活用（開放）を中心に設置するネットワーク型まちの駅が、福岡から始まった。

設置賛同者が増えたところで、平成 12 年に「まちの駅連絡協議会」を立ち上げ、認証・登録を始めた。現在、全国に約 1,550 の「まちの駅」が設置されている。

2.1.2　「まちの駅」の概要

本節は、「まちの駅」のホームページの「http://www.machinoeki.com/」（文献４）を参考に「まちの駅」が備えるべき機能、施設等の要件を整理しておく。

（１）まちの駅の定義と機能

まちの駅は必ずしも新設のものである必要はなく、既存施設の活用により、市町村、ＮＰＯ、団体等が地域連携を目指しネットワークを図ることを原則とし、様々な運営主体、施設内容、規模、運営形態を持ったまちの駅が、共存することを想定している。したがって、市町村という行政域を越えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を有するものであり、以下の機能を備えるものである。

- ☆　誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能（休憩機能）
- ☆　まちの案内人が、地域の情報について丁寧に教える機能（案内機能）
- ☆　地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする機能（交流機能）
- ☆　まちの駅間でネットワークし、もてなしの地域づくりをめざす機能（連携機能）

（２）名称およびシンボルマーク

３つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。真ん中の「i（アイ）」はインフォメーションを表している。

つまり、このマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。

まちの駅のマーク

各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営主体、運営目的などに応じて、個性ある名称を名付けることとしている。ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会した者で、かつ一定の条件を具備した施設に使用が認められている。

（３）看板の設置

各まちの駅は、全国のまちの駅相互の連携を保ち利用者の信用を確保するために、一定の規格に沿った共通シンボルマークを表示した看板を設置することが義務付けられている。その規格等は別に定めた「シンボルマーク使用・看板設置マニュアル」に従うこととなっている。

（４）連携・支援

まちの駅は、相互に連携・支援し合うことを基本として、これらを促進するために、各地の状況に応じて連携支援事項を申し合わせることになっている。「道の駅」等との関係

においては、とくに形式的に区別せず、相手との協議に応じて、共存、連携していくことが勧められている。

（５）人の配置

まちの駅には、「もてなしの心」をもった人を常駐させることが必要であるが、他の職務との併任でも構わない。案内人は、まちや隣接市町村等に関わる知識を習得するように努めることとされている。まちの駅運営者は、案内人が積極的に研修を受けられるよう配慮するとともに、他の地域を含む案内人どうしの交流の機会をつくることに努めることとされている。まちの駅連絡協議会主催の全国大会や研修会、その他地方大会等が開催される場合は、可能な限り派遣に努めることも必要である。

（６）設備・備品・サービス

まちの駅に必要な最小限レベルの設備・備品・サービスは以下のとおりである。

- ☆　まちの駅看板（のぼり、シール等でもよい）
- ☆　利用者が休憩できるスペース、椅子等
- ☆　トイレ（障害者も利用可能なものが望ましい）
- ☆　まちおよび周辺の情報

（７）共通情報の整理、提供

まちの駅は、道路交通、地図情報、地元情報（観光、イベント、文化、歴史、住民活動等)、緊急時の対応等に係わる情報を常備することが必要とされている。

（８）登録

まちの駅として登録を受けるためには、別に定める認定申請書に必要事項を記入の上「まちの駅連絡協議会　事務局」に提出しなければならない。「まちの駅連絡協議会」役員会で、まちの駅の要件を欠くと判断した場合、具体的な問題点を当該まちの駅に文書で通知することとなっている。通知を受けたまちの駅は早急に改善しなければならない。改善が図られない場合は、速やかに退会届を提出するものとなっている。

（９）報告

まちの駅に携わる者は、相互の運営およびまちの駅の全国レベルでの運営戦略展開に資するために、 所定の項目について、電子メール等を活用し、定期的に情報交換を行うこととなっている。報告項目については、まちの駅ホームページで紹介される。

（１０）全国組織

全国共通に実施することについては、「まちの駅連絡協議会」において定めることとし、その規定に従うことになっている。

2.1.3　道の駅とまちの駅の違い

「まちの駅」と「道の駅」を混同している方が多いというのは、各地からよく聞かれる声である。文字と違って、発音が似ているので聞き間違えやすいことも一因と考えられる。

「道の駅」は、①休憩機能②情報発信機能③地域連携機能の３つを合わせ持った公共施設である。利用者が無料で 24 時間利用できる十分な容量を持った駐車場や清潔なトイレがあることなどの登録要件とともに、設置者が「市町村または市町村に代わり得る公共公的な団体」と定められている。

国土交通省のホームページ(文献５)では、「道の駅」の沿革として“平成３年 10 月～４年４月「道の駅」を実験（山口、岐阜、栃木県)”としか記載されていないが、「道の駅」の社会実験は国が行ったのではなく、地域交流センターが事務局となって、地元自治体や各種団体メンバーで協議会を組織して実施したものである。仮設の「道の駅」を設置して約１か月の利用状況を検証した。その実験成果を受けて、建設省道路局により「道の駅」の共通コンセプトが整理され、平成５年に「道の駅」は制度化された。それから 25 年が経ち、全国各地に「道の駅」の設置が進められ、平成 30 年４月時点で 1,145 駅が登録されている。「道の駅」の発想は、平成２年１月に地域交流センターが中心となって広島で開催した「中国・地域まちづくり交流会」の中で山口県の船方農場代表の坂本多旦氏が、「道路にも鉄道の駅のような施設があってもよいのではないか」と発言されたことに始まる。そこで、参加者の賛同を得て、道路沿いに「駅」を作る実験事業が始まった。トイレに困った体験がきっかけなので、「道の駅」にはトイレが必須の設備になった。一方、「まちの駅」は①休憩機能②案内機能③交流機能④連携機能の４つの機能を持った溜まり場である。コンセプトは「道の駅」とあまり変わらないが公共機関に限らず民間商店やＮＰＯ等でも設置・運営できる点が大きく違う。「全国まちの駅連絡協議会」が認証しているといっても条件はゆるくして駅長になる方の地域や人を思う気持ち、「おもてなし」の心を大切にしている。そのため個人商店や小規模施設から大型店舗や企業の工場。多機能施設など多種多様な主体が施設（の一部）を休憩＆交流スペースとして開放し、「まちの駅」となっている。「まちの駅」をきっかけに思いを持った人同士がつながりゆるやかなネットワークが形成されている。

「道の駅」は、公共インフラとしての物理的作用により人々の利便性を高め、社会を支える機能も拡張している。一方の「まちの駅」では、街なかの様々な人々の出会いと語らいの中から人間関係の化学反応が起きて地域を変える力になっていくことが期待されている。両者の違いから「道の駅」として登録された施設が地域内外の交流・連携を求めて、まちの駅ネットワークに参加する例も増えてきている。

2.2　過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

本ゼミでは平成 19 年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。その概要は以下のとおりである。

＜平成 19 年度＞

①文献・資料調査により「まちの駅」の歴史と概要を整理し、②文献・資料調査及びヒアリング調査により、長岡市における「まちの駅」の現状と課題をまとめ、③「まちの駅　長岡大学」の活性化に向けて以下の４つの提言を行った。

提言１：交流会への積極的参加と学生への情報発信

提言２：教職員及び学生による「まちの駅　長岡大学」活性化協議会の設置

提言３：学内での「まちの駅　長岡大学」の認知と予算・人的協力体制の構築

提言４：学校施設の積極的解放と学外への情報発信

＜平成 20 年度＞

平成 19 年度の調査を受ける形で、①全国の「まちの駅」へのアンケート調査の実施、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を行った。活動②及び③は学園祭（悠久祭）で実施した。

＜平成 21 年度＞

平成 20 年度のアンケートの調査結果及び、アドバイザーになって頂いている『長岡市民センター』の職員の方のすすめを受けて、①富士地域、会津地域、本庄地域の「まちの駅」にヒアリング調査を実施した。あわせて平成 20 年度同様、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を実施した。ヒアリング調査からは以下の３点の提言を行った。

提言１：マスコットの募集と作成

提言２：パスポートの作成

提言３：ウォーキングイベントの実施

上記以外にも、「まちの駅」やゼミ活動をパネルにし、学内に展示するなど多くの活動を行ってきた。その結果、平成 19 年度には学生にほとんど知られていなかった「まちの駅」が、今ではほとんどの学生がその存在を知るようになっている。また、図書館や駐車場の一般開放など実行に移された提言もある。

＜平成 22 年度＞

長岡市内にある全ての「まちの駅」（平成 22 年調査時 50 ヵ所）でヒアリング調査を実施し、その内容を学生の視点でまとめた紹介パネルを作成した。作成したパネルは学園祭（悠久祭）でパネル展として展示し、多くの人に足を運んで頂いた。そして、例年同様に「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）も行った。

また、越時計店の協力を経て、大手通りにあるブロンズ像を使ったカレンダーを作成し、「まちの駅」のパネルと同様にホームページでの配信を行った。

その他にも様々なイベントに参加し、和島地域で行われたイベントでは平成 21 年度の提言であるウォーキングイベントも実施された。

＜平成 23 年度＞

長岡地域の「まちの駅」が 50 駅から更に７駅増え、57 駅になった。既存の駅については、再度ヒアリング調査を行い、変更箇所などを直しパネルを新たにリニューアルした。

新たに加わった７駅については、まちの駅になった経緯やお店のＰＲなどをヒアリング調査し、パネルを作成した。例年同様に、作成したパネルは学園祭でパネル展として展示し、「まちの駅」の食材を使った模擬店（炊き込みご飯と味噌汁の販売）も行った。

併せて、23 年度はまちの駅の活動をとおして、その活動に参加している人々のまちづくりに関する意識がどう変わったかを検証するために、『「まちの駅」の活動による地域づくりに関する意識調査』を実施した。

＜平成 24 年度＞

平成 24 年度は、新たに見附地域の「まちの駅ネットワークみつけ」を対象にヒアリング調査、アンケート調査を実施した。ヒアリング調査は、見附地域の全ての「まちの駅」に対して、まちの駅になったきっかけ、お店のＰＲを中心に実施した。ヒアリングで聞いた内容でまちの駅紹介パネルを作成した。作成したパネルを学園祭で紹介し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。学園祭の模擬店では、まちの駅の食材を使い「麻婆丼」の販売を行った。

アンケート調査ではまちの駅の交流力、経済効果、影響力の３つをテーマにして実施した。その結果、地域へ様々な面で貢献していることがわかった。

＜平成 25 年度＞

平成 25 年度は、糸魚川地域のまちの駅 10 駅および、新たに開設された長岡５駅、見附２駅の「まちの駅」にもヒアリングを実施した。ヒアリング調査後に「まちの駅紹介パネル」を作成し、悠久祭でのパネル展や地域活性化プログラムのホームページに掲載して情報発信を行った。また平成 24 年度までに制作した「越後長岡まちの駅」54 駅と「ネットワークみつけ」36 駅のまちの駅紹介パネルの修正・更新を実施した。

あわせて、新潟県内の全てのまちの駅にアンケート調査を実施し、施設別での分析と長岡や見附などの地域ごとでの分析を行った。

＜平成 26 年度＞

平成 26 年度は、新潟県内の新たにまちの駅となった駅や未調査の駅（21 駅）をヒアリング調査した。ヒアリングでは、駅名や住所、電話番号などの基本項目の確認、店または施設の紹介・ＰＲ、まちの駅になった理由などをお聞きし、これらの情報を基にパネルを作成した。パネルは、それぞれの駅の基本情報や駅長からのメッセージ、駅の様子がわかる写真などを載せた。また、学生それぞれが思い思いの「学生のつぶやき」を載せることで、よりそのまちの駅に興味を持ってもらえるようにした。そして、作成したパネルは学園祭（悠久祭）でパネル展として展示し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。

まちの駅全国大会に参加し、全国のまちの駅の方との交流を通して、各地域の取組や課題を共有化できた。

＜平成 27 年度＞

平成 27 年度は、新潟県内に新たに開設された糸魚川、三条、上越、越路、新潟（各１駅）の５駅と、長岡市の組織変更により変更があった「ながおかまちの駅」の合計６駅を

ヒアリング調査し、パネルを作成した。

また、昨年度の成果発表会でアドバイザーの方から依頼された「各まちの駅がどのようなおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考になるような情報を提供してほしい」に対応するために、新潟県内 127 のまちの駅に「おもてなし事例調査」を実施した。調査の目的については、まちの駅になって良かったと思うこと、自分のまちの駅や駅長さん自身でこれからどのような行動をしたらよいかを知ることである。

なお、有効回収数は 82 駅であり、回収率は 64.6%であった。調査の結果、各まちの駅は、基本的な機能を果たしながら、来られたお客様に「おもてなし」の心で対応していることが分かった。

＜平成 28 年度＞

平成 28 年度は、『「まちの駅」をフィールドとした、活動等による地域活性化活動への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。

まちの駅の調査研究では、長岡 19 駅、見附 12 駅、糸魚川 2 駅、新潟 2 駅、魚沼 1 駅、五泉 1 駅、の合計 37 駅のまちの駅のヒアリング及びパネルの更新を行い、学園祭やアオーレ長岡市民共同センターで展示、ホームページで掲載を行った。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントへ参加した。また、まちの駅全国フォーラム in Tokyo、新潟県内まちの駅交流会にて各まちの駅の方々と意見交換を交えた交流を行った。

＜平成 29 年度＞

平成 29 年度は、新潟県内まちの駅の調査研究と地域活性化活動を行った。その他にまちの駅の情報発信活動として、まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェや株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第 27 回安全大会へ参加し本ゼミナールの活動発表を行った。もう一つのテーマでは「まちの駅」から越路地域の魅力発信を行った。越路地域の全 7 駅のまちの駅と連携し、越路まちの駅マップを作成した。作成したマップをもみじ園のイベントや悠久祭のパネル展で配布を行い越路地域の魅力発信できた。

３．第 21 回まちの駅全国大会 in 会津

3.1　概要

（１）開催趣旨

「まちの駅」は、①トイレを無料で利用できる“休憩機能”、②まちの案内人が地域の魅力を伝える“案内機能”、③人と人が出会う“交流機能”、④まちの駅同士がネットワークで繋がる“連携機能”、の４つの機能を持つ街なかのふれあい拠点である。

「まちの駅全国大会」は、全国のまちの駅メンバーが一堂に会して、情報交換と親睦を図る為に毎年開催されている。平成 30 年度は、福島県会津若松市で開催された。各地のまちの駅の実践例に学びながら、参加者同士の自由な意見交換によって、自らの活動を見直すと共に、明日への知恵と元気が湧き出すような交流集会を目指して開催された。

（２）日時

平成 30 年 11 月 9 日（金）～ 10 日（土）

（３）場所

会津若松ワシントンホテル（まちの駅ワシントンホテル憩いの広場）

（４）主催

全国まちの駅連絡協議会

（５）主管

「まちの駅全国大会 in 会津」実行委員会

（６）後援

福島県・会津若松市

（７）長岡大学参加者

鯉江ゼミ	氏　　名
４年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香
３年生	小出優花

3.2　参加目的

鯉江ゼミナールは平成 19 年度より「まちの駅」を対象として調査・研究を行っている。また、長岡大学はまちの駅となっており、全国大会にはまちの駅に携わる一員として参加した。

今回は、参加した学生全員が全国大会初参加であった。全国大会を通じて各地のまちの駅の取り組みや現状、課題点を把握し、それを踏まえて今後の新潟県内のまちの駅の調査

研究活動に役立てていくことを考えた。加えて、大会に参加された全国のまちの駅に携わる方々と接し、交流の輪を広げることも目的とした。

3.3　活動概要

（1）１日目：11 月 9 日（金）

13：30　式典　オープニング
14：00　フォーラム「戊辰 150 周年・まちの駅でもっと交流しよう」
15：10　テーマ別分科会　第２分科会「まちの駅の機能アップ～若者も立寄るまちの駅へ」
17：15　分科会報告＆総括
18：00　大交流会

＜フォーラム「戊辰 150 周年・まちの駅でもっと交流しよう」＞

フォーラムでは、「ラジオの駅」である FM 会津の特別企画として、会場内でラジオの生放送番組が行われた。放送では、コミュニティー放送局の FM 会津のパーソナリティーの方と、ミスワールドジャパン 2017 ファイナリストの方がゲストとして登場し、各地のまちの駅の取り組みがトーク形式で発表された。その後も、戊辰 150 周年を記念した会津の紹介動画を観賞したり、福島県の観光 PR 隊「HAPPY ふくしま隊」の方々がダンスを披露してくださったり、福島県の魅力を深く知ることができる時間となった。

生放送ラジオの様子

＜テーマ別分科会＞

テーマ別分科会では、以下の３分野に分かれ様々な視点からグループディスカッションを行った。

・第１分科会「インバウンド～YOU は何しにまちの駅へ？」
・第２分科会「まちの駅の機能アップ～若者も立寄るまちの駅へ」
・第３分科会「まちの駅の魅力の見つけ方、磨き方、売り出し方～マップづくりから考える」

学生は第２分科会の「まちの駅の機能アップ～若者も立寄るまちの駅へ」に参加した。始めに、鯉江ゼミナールに発表をしてほしいと依頼をいただいていたため、これまでのまちの駅の研究成果と、学生の視点から今後のまちの駅のあり方や課題について 15 分程度発表をした。その後 10 人程度ずつのグループに分かれ、各グループで異なるテーマについてディスカッションを行った。

＜テーマ①　まちの駅も気持ちも若返らせよう～まちの駅高齢化対策＞

このグループではまちの駅の高齢化対策について話し合った。駅長さんや駅に立ち寄る方々は比較的ご年配の方が多いため、若者が入りづらい状況にある。若者がもっと立ち寄りやすくするために、まちの駅自体をどう若返らせるかがテーマである。ここで挙がった意見として、駅長を２代目に譲るというものがあった。駅長を自分の子どもなどの下の世代に受け継ぐことで、駅長も駅自体も若返ることになり、より若者が立ち寄りやすい空間を作り出せるのではないかという考えである。また、駅長自身の気持ちを若返らせるという意見も挙がった。少子高齢化だからといって、高齢者を排除するのではなく、高齢者自身の気持ちを若返らせ、様々な世代が共存してまちの駅を盛り上げていくことが大切であるという考えである。

発表の様子

＜テーマ②　まちの駅コンセプトの見直し＞

ここではまちの駅のコンセプトの見直しについて議論した。店がまちの駅となっている場所が多く、店の利益を最重要視している駅がほとんどであるため、本来のコンセプトである「おもてなしのこころ」が何か理解していない人が多いという意見が出た。そのため、「おもてなしのこころ」の明確化を図る必要があるという対策案が挙がった。抽象的な言い回しでなく、具体的に何をすべきかなどを明確にすることでよりコンセプトを理解でき、来てくださった人に「まちの駅」としてのおもてなしができるのでないかというものである。

発表の様子

＜テーマ③　自分も人も楽しめる術を＞

このグループでは自分も人も楽しめる術について話し合った。「自分」とはまちの駅の駅長や従業員であり、「人」とは訪れる方々だ。第２分科会のテーマが「若者も立ち寄るまちの駅へ」ということもあり、駅の関係者も若者も楽しめるということに重点を置いた。意見としてSNSで情報発信をする、フリーマーケットやマルシェなどのイベントをまちの駅が主催となり地域全体で連携して行う、若者が必要とするスマートフォンの充電器や自転車の空気入れを設置するなどが挙がった。若者を呼び込みたいとは思っているが、取り組みを

発表の様子

行っても盛り上がらないことを恐れ何もできていないという駅長さんがいらっしゃった。人が楽しめる取り組みを行うためには、まず自分が楽しむことが必須だ。そのため、まずは話し合いで出た上記の意見を積極的に取り入れてみることが重要である。取り組みを行ったことで来てくださった若者がいれば、そこから会話や交流の輪が広がりお互いに楽しめるものになる。

この分科会は、まちの駅の現状や課題をより深く理解することができる貴重な時間となった。学生の意見が、まちの駅がより成長していくための糧になれば幸いである。

その後の分科会報告で、各分科会の話し合いの中で出た意見を代表者が発表した。

＜大交流会＞

全国のまちの駅に携わる方々と食事をしながら交流した。地域ごとに座席が決められており、見附や長岡のまちの駅の方々とお酒を飲みながらゼミ活動についてや地域の話、雑談などをしたことで親睦をより深めることができた。

交流会の途中で各地域の駅長さんや関係者を壇上で紹介する時間があり、学生たちも新潟県から来たグループとして紹介された。その際、まちの駅連絡協議会会長で見附市長でもある久住時男さんご本人から説明をしていただいた。その他にも芸子さんが踊りを披露してくださったりと、非常に楽しく盛り上がった大交流会であった。

芸子さんとの写真

（２）２日目：11 月 10 日（土）

9：00　エクスカーション「まちの駅ツアー・晩秋の会津巡り」戊辰 150 年ゆかりのコース（まちの駅巡り）

16：00　会津若松駅・解散

＜エクスカーション「まちの駅ツアー・晩秋の会津巡り」戊辰 150 年ゆかりのコース（まちの駅巡り）＞

会津若松市は観光地がまちの駅となっている場所が多い。今年は戊辰 150 周年という記念の年でもあることから、戊辰戦争に関係のあるまちの駅を巡るエクスカーションが行われ、学生も参加した。

＜会津藩校日新館＞

最初に訪問した先は会津藩校日新館である。人材育成を目的に 1803 年に設立され、幕末には白虎隊の少年たちや 2013 年大河ドラマ「八重の桜」の主人公・新島八重の実兄・山本覚馬をはじめ、多くの優秀な人材を輩出した会津藩の最高学府だ。ここでは壮大な江戸建築や当時の学習の様子、日本最古のプールと言われる水練場などを観覧した。規則が非常に厳しい白虎隊の少年たちの生活や学び舎を知ることができた。日新館まで続く階段からは会津のまちを一望でき、その景色は見事である。「まちの駅　白虎隊の学び舎」として、弓道などの武士道体験も行っている。

当時の授業の様子を
再現した人形

＜飯盛山＞

続いて向かった先は白虎隊で有名な飯盛山である。山上まではスロープコンベアが設置されているため楽に登ることができた。白虎隊十九士の墓や特殊な造りをしている会津さざえ堂、厳島神社などを見て回った。この地で自刃した白虎隊の隊士たちの悲劇を知り、戦争の恐ろしさを実感した。時間の都合上、隅々まで詳しく見ることはできなかったが、非常に見応えのある観光地であった。こちらも小高い山であるため、会津若松市内を望むことができる。また、飯盛山駐車場に隣接した飯盛山観光案内所は「まちの駅　飯盛山」でもあるため、休憩場所としても利用することができる。

会津さざえ堂

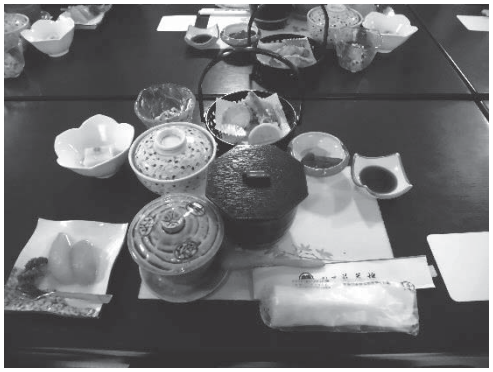
＜会津武家屋敷＞

「まちの駅　会津藩」である会津武家屋敷は、七千坪の敷地に会津藩家老・西郷頼母邸、重要文化財の旧中畑陣屋、会津歴史資料館などの歴史的建造物が軒を連ねる「歴史感動ミュージアム」である。また、会津の有名な品を取り揃えた売店「郷公房　古今」や食事処「九曜亭」も併設している。私たちが行った時期が菊まつりと重なっていたため、様々な種類や色の菊が場内を彩っており、非常に綺麗だった。

会津武家屋敷内の様子

＜割烹　萬花楼＞

昼食は「割烹の駅」でもある萬花楼で食べた。部屋からは趣のある日本庭園と、池にいる大きな鯉を眺めることができる。私たちが行った時期は紅葉がピークだったため、色とりどりの木々を堪能することができた。馬刺しや天ぷらなど多様な種類の割烹料理をいただいた。割烹料理を食べることは初体験であったが、会津の郷土料理である「こづゆ」が特に美味しく、非常に印象に残った。分科会や大交流会でお話できなかった方ともお話をしながら食事し、親睦を深めることができた。



萬花楼の割烹料理

＜松平家廟所＞

ここは、会津松平家の歴代藩主が葬られている墓所だ。東西三百間、南北百五十間の広大な墓域は大名墓所でも屈指の規模である。碑石の台座は亀の形をしている。自然に囲まれた厳かな地であり、身が引き締まるようだった。ここはまちの駅ではないが、会津に関する場所として説明をしていただいた。

松平家の石像

＜鶴ヶ城＞

最後に訪れたのは「お城の駅」である鶴ヶ城だ。戊辰戦争で約 1 ヵ月間の攻防戦に耐え抜いたことから、難攻不落の名城として知られている。2011 年春に外観のリニューアルを終え、幕末往時の赤瓦の天守閣に生まれ変わった。ここでも時間の都合上城内を詳しく見て回ることはできなかったが、最上階から見る会津若松の地は素晴らしいものだった。また、城がまちの駅に登録しているということにとても驚いた。

鶴ヶ城外観

展望台からの眺め

＜鶴ヶ城会館＞

鶴ヶ城のすぐ近くにある鶴ヶ城会館も「まちの駅　鶴ヶ城」というまちの駅である。ここは会津や福島県の様々な土産や名産品を買うことができる観光物産館だ。食事処や手づくりジェラート工房などもあり、まちの駅の機能の一つである休憩場所としても利用しやすい施設である。非常にたくさんの種類の品が置いてあったため、買い物に時間がかかりバスの出発時間に遅れそうになってしまうほどだった。

3.4　まとめ

今回のまちの駅全国大会 in 会津への参加は、各地域のまちの駅の現状や取り組みを知る貴重な機会となった。その中で気づいた点が二つある。

一つ目は、まちの駅によって意識の差があることである。全国大会に参加している方々はまちの駅を広めたい、良くしたいと思っている方が非常に多く、意識の高さに敬服した。しかし、その他の多くのまちの駅の方々は大会に参加できていない。店を経営されている方が多いため、その方々も集まり意見を言い合えるような機会を増やしていくことが意識の差を縮めるために必要なのではないかと感じた。

二つ目は、観光地をまちの駅にすることに意味はあるのか、ということである。上記のように会津若松市では観光地がまちの駅となっている場所が多い。まちの駅巡りをしながら観光もできるということは集客にも繋がり、会津のまちの駅ならではの強みであると考える。観光地同士の連携も強固なものだろう。しかし、それでは地域の人同士の交流やまちのちょっとした休憩場所などといった、まちの駅本来の機能が果たされにくいのではないかと感じた。「まちの駅」として来ていただくために、まずはまちの駅であることを全面的に出し、お客様に知っていただくことが始まりになると考える。

分科会や大交流会を通じて駅長さん方の思いや意識の高さを知ることができた。今回の大会で学んだことを今後の生活やゼミの活動に生かしていきたいと考える。次回の全国大会にも是非参加して、人同士の交流を深めることや、まちをより良くするための方法を全国のまちの駅の方々と話し合っていきたい。

４．FM ながおかラジオ番組

4.1　概要

まちの駅をフィールドとして調査・研究を行う私達学生が、長岡市内の11地域の越後まちの駅ネットワーク加盟店（全11駅　幹事駅）に取材を行い５分間のラジオ番組をFMながおかで作成する。

（１）事業目的

☆「まちの駅」の認知度向上と共に、「まちの駅」が身近で立ち寄りやすいコミュニティの場であることを定着させる。

☆「まちの駅」関係者への取材を通して、「まちの駅」としての個性や魅力を改めて認識する。

☆「まちの駅」同士の連携を図り、今後のコラボレーション企画への機運醸成に繋げる。

（２）放送日時

11 月から３月の奇数週の木曜日、朝８時５分放送予定

11月15日、29日　　12月６日、20日　　１月３日、17日、31日

２月７日、21日　　３月７日、21日

（３）取材先のまちの駅〈越後まちの駅ネットワーク加盟店 11 駅、幹事駅〉

①まちの駅　長岡大学	長岡大学
②湯と食とやすらぎの駅	あまやち会館
③和紙の駅	おぐに和紙の店
④まちの駅　酒蔵のある里	酒蔵のある里　酒楽の里　あさひ山
⑤メディアさぽーと　まちの駅	原田通機・情報サービス
⑥まちの駅　寺泊	寺泊町観光協会
⑦日本茶の駅	広野茶店
⑧まちの駅　あぐりの里	道の駅　越後川口　あぐりの里
⑨まちの駅　喜芳	花みずき温泉旬食・ゆ処・宿喜芳
⑩まちの駅　もてなし家	道の駅良寛の里わしま地域交流センター
⑪まちの駅　よいた	与板観光協会

（注）○番号は、放送順である。

（４）参加学生

４年	加藤　茉那、　鈴木　絵莉香、　新保　聡
３年	小出　優花、　近藤　孝洋、　山城　時生

（５）協力

越後ながおかまちの駅ネットワーク（長岡市市民協働センター）、FM ながおか

（６）番組名

「長大生と行く！　まちの駅ヒアリング GO！！」

（７）番組内容

ヒアリングで得た情報を基に学生同士の掛け合いの中でそのまちの駅が行っていること、駅長さんの人柄を紹介し、駅長さんからの 1 分間 PR をした後に、学生が考えたそのまちの駅のキャッチコピーを紹介していく。

（８）放送までの流れ

① アポイントメント

学生が直接取材先のまちの駅に電話をかけアポイントメントを取る。

② 取材（ヒアリング）

取材先のまちの駅にヒアリング調査を行い、取材する内容、駅長からの一分 PR を収録する。

③ 放送内容を考える

ラジオで流す学生たちの掛け合いと学生が行ってみて感じたことをキャッチコピーとして考える。

④ 収録

最後に音源を取って FM ながおかに送付する。

（９）感想

以下は、今回ラジオ番組作成に携わった学生からの感想である。

☆ラジオに出演することは初めてだったため、声だけで聴いている人にまちの駅の魅力を伝えることの難しさを感じた。

☆ゼミ生が協力して作り上げることができて良かった。一番大変だったことは、学生たちの掛け合いで、会話が棒読みのようになってしまいラジオで話す大変さを感じた。

☆訪れたことのある駅、初めて訪れた駅に取材を行うことで、まちの駅についての知識を増やすことができた。

☆今回の活動は学生が主体で行ったため、日程調整なども学生が行った。日程調整は社会人になってから大切な力となるため良い経験となった。

（10）反省・課題

今回は、ラジオという新しい媒体でまちの駅をアピールする活動を行ってきた。最初はヒアリングを行う際も緊張で取材をうまく進められなかったり、音声を取る時も棒読みになってしまった。回数を重ねるごとに取材や収録も順調に進める事はできたが、あらかじめ下準備をしっかりと行うことができていたら、もう少しスムーズに進んでいたように感じる。また、今回の活動を通してラジオを聴いてくれた方が「まちの駅」に足を運んでくれた人がいるのかも調査する必要があると感じた。このことをふまえて交流人口の増加に寄与できたのか調査することが課題である。

4.2　まとめ

今回私たちは、越後ながおかまちの駅ネットワークの方々や FM ながおかと協力して「まちの駅」をより多くの人に知ってもらうため、５分間のラジオ番組を作成した。学生同士の掛け合いの中でそのまちの駅の行っていることや駅長さんの人柄を紹介し、住所などの基本情報も加えて紹介した。活動を通して行ったことのなかった「まちの駅」に足を運び、話を聞くことでより「まちの駅」の魅力を発見することができた。私たちが実際に「まちの駅」に行き思ったこと、感じたことをそのまま率直に伝えたため学生らしいラジオを作成することできたように感じる。ラジオは声だけで相手に魅力を伝えなくてはいけないため、感情の込め方や声の強弱など様々なことに注意をはらった。今年一年私たちは、「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したいというテーマで活動を行ってきた。ラジオ作成が交流人口の増加に寄与できているのか調査することが必要となる。来年度、今回取材を行った 11 駅にアンケート調査を行いたいと考えている。

活動を通して学生同士も協力して行うことができた。また、たくさんのヒアリングを行ったためコミュニケーション能力や社会人基礎力の向上を図ることができたように感じる。来年度も今年度の反省・課題を念頭に置いて活動を行っていきたい。

なお、現在（平成 31 年１月 11 日）ＦＭながおかで放送中の「長大生と行く！まちの駅ヒアリング GO！！」については、

ながおか市民協働センターウェブサイト「CO・LIGHT」

https://nkyod.org/topics?g=4220

ＦＭながおか（ＨＰ）

http://www.fmnagaoka.com/blog/cat_topics/4819/

で聴取できるので、訪れて頂ければ幸いです。

ヒアリングの様子
和紙の駅

ヒアリングの様子
リンクさぽーと　まちの駅

湯と食とやすらぎの駅

まちの駅　酒蔵のある里

日本茶の駅

まちの駅　寺泊

５．新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成

5.1　ヒアリング調査を実施するまでの手順

ヒアリング調査を実施するまでに行った手順は以下の通りである。

＜手順①　ながおか市民協働センターからの情報提供＞

越後長岡まちの駅ネットワーク事務局の高橋さんに、まちの駅の情報をお聞きした。

＜手順②　アポイントメント＞

ヒアリング調査を行う駅にヒアリング調査のアポイントメントを取った。今年度は、人数が少ない関係で、こちらの都合に合わせてもらう形になった。

＜手順③　ヒアリングの実施＞

今年度は、８月末までにヒアリング調査を実施した。まちの駅を始めたきっかけやその駅の特徴、これからどんな駅にしたいかなどをお伺いした。

5.1.1　パネル作成から完成までの手順

パネルの完成までの手順は以下の通りである。

＜手順①　情報整理＞

まずはヒアリング調査で得た情報をメンバー間で共有した。パネルにどの情報を入れるか話し合った。

＜手順②　パネル作成＞

PowerPoint を使用してパネルを作成した。ヒアリング調査で頂いた資料やまとめた情報を基に作成した。その駅の特徴を意識したデザインを考えるのが大変であった。

また、実際に印刷してみると文字や写真の大きさ、色といった全体の雰囲気などがパソコンのディスプレイで見た時と違っており、何度も作り直した。

＜手順③　仮完成＞

完成したパネルを各駅にメールでお送りし、内容やデザインを確認していただいた。

＜手順④　パネルの修正＞

修正箇所を頂いた駅に関しては、修正した後に、もう１度メールでお送りして確認していただいた。

＜手順⑤　パネルの完成＞

駅長さんの了解をいただいて完成である。それぞれのまちの駅の特徴が出せるよう工夫しパネルを作成した。

5.1.2　パネルの紹介

（1）更新パネルの紹介

どのような更新を行ったのか、更新前と更新後のパネルを用いて紹介する。

＜ネーブルみつけの更新点＞

・今後のイベント・集合写真を変更した　　・文字の形式を変更した

・学生のつぶやきの内容を変更した

＜長岡大学の更新点＞

・パネルの背景を変更した　　・文字枠や図のスタイルを変更した

・まちの駅紹介の内容を変更した　　・学生のつぶやきを変更した

（２）パネルを作成した駅の紹介

今年度、パネルを作成した駅は以下の通りである。

☆『そば一筋の駅 そば道場』

☆『焼肉と韓国料理の駅 韓国本格炭火焼肉 めい』

☆『素肌作りの駅 エステフェイスライン』

＜そば一筋の駅 そば道場＞

「そば一筋の駅 そば道場」は、定年退職された後に昔からの同僚と趣味でそばを作っていたことがきっかけで始めたそうである。駅長さんは、気さくで若々しくパワフルな男性の方である。

こちらで出されるそばは、毎朝作っているのでコシがある。手打ちそばは 500 円で、サラリーマンの方でもランチに気軽に食べられるようにお得な値段になっている。さらに天ぷらは、その時期の旬なものや珍しい山菜・野菜を使っている。また第２水曜日と第４水曜日に予約をすれば、そば打ち体験が出来る。老若男女問わず体験が出来る。この体験を就職活動の面接で話した人もいるそうだ。

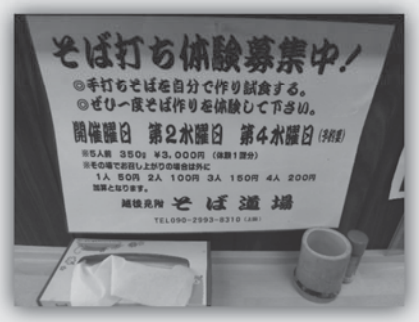
そして、こちらの駅のキャッチコピーは、「そばへの愛情日本一」である。季節に合わせて全国の様々なそば粉を使っているという、こだわりを参考に名付けさせて頂いた。運がよければ店内からそばを打つ姿が見られるかもしれない。

そば道場・ヒアリング

そば一筋の駅【そば道場】

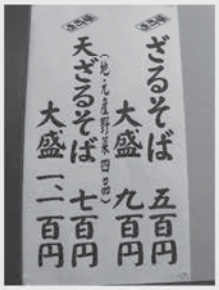
まちの駅紹介

昔からの同僚と趣味でそばを作っていたことがきっかけで始まったのがそば一筋の駅です。
そばを食べられるだけでなく、事前に予約をすればそば打ち体験もできるまちの駅です。
手打ちそばは500円で、サラリーマンの方でもランチに気軽に食べられるようにお得な値段にしています。
天ぷらは季節ごとに変えており、四季にあった様々な山菜を楽しむことができます。
駅長の上田さんは、お客さんとのコミュニケーションを大切にしており、天ぷらに珍しい山菜を使用することでお客さんから「これ何の山菜ですか？」と質問されてそこから会話が広がるのが楽しいそうです。
店内の奥にあるスペースでそばを打つこともあるので、もしかしたらそばを打っているところが見られるかもしれないですよ！
営業日は、店の外にベンチがあり休憩ができます！



Googleマップより

〒954-0057
見附市新町3-2-21
TEL 090-2993-8310
営業日　金、土、日曜日
時間　11:30～14:00



そば100%にこだわってます！

学生のつぶやき

駅長さんはとても気さくな若々しい方です。
そば本来の香りと味が楽しめる十割そばにこだわっており、運が良ければ出来立てが食べられるかも！

山城時生

平成30年度編集

＜焼肉と韓国料理の駅 韓国本格炭火焼肉 めい＞

「焼肉と韓国料理の駅 韓国本格炭火焼肉 めい」は、【みつけ健幸の湯 ほっとぴあ】の近くにあり、焼肉と韓国の家庭料理を提供しているお店である。こちらの駅長さんは、韓国出身の女性の方である。駅長さんは、東京のお店で修行した後、見附市にお店を構えられたそうである。

お店のメニューは、修行したお店をベースとしつつ、お客様からの意見も反映させて作られている。また、まちの駅だけでなく観光物産協会・商工会議所にも所属していらっしゃる。そしてお客さんに良いものを食べて欲しいとの思いから、食材にこだわり、仕入れ値が高くても提供しているそうである。

こちらの駅のキャッチコピーは、「国境を越えて地域を盛り上げる駅」である。駅長さんは、自分のお店の知名度アップだけでなく、見附地域全体が活性化することに力を入れて取り組んで行きたいと語っていらしたので、このように名付けさせて頂いた。駅長さんには、これからも地域に愛されるアットホームな駅を作り続けていただけると思う。

焼き肉と韓国料理の駅・ヒアリング

見附
地域

焼肉と韓国料理の駅
【韓国本格炭火焼肉　めい】

まちの駅の紹介

駅長の李(佐藤) 梅紅さんは、日本に来て21年目になります。
東京の「せんなり」で修行していました。
ネーブル見附で友達に進められ、まちの駅に参加しました。今は多くの方に愛されるお店を目指して頑張っています。
また、見附の活性化についていろいろな考えをお持ちで、見附地域を盛り上げるために様々な提案をしています。

駅長さんのおすすめ

お客さんの立場に立ってメニューを考え、なるべくお客さんの意見を取り入れるようにしています。
おススメニューは、キムチ盛り合せ・コムタンスープ・タンのネギ巻牛タン・冷麺・ビビンバです。

焼肉を食べるならここ!!

学生のつぶやき

ここの駅長さんは、パッション溢れるお客さん想いの方です。元気がない時は、ここで焼肉を食べて、エネルギーを貰える方と感じました。
近藤 孝洋

〒954-0053
見附市本町1-3-45
TEL 090-7413-4999
「ランチ」11:00~14:30
「ディナー」
17:00~22:30(平日)
17:00~23:00(休前日)
定休日:不定休

H30年度作成
近藤 孝洋・新保聡
山城 時生

＜素肌づくりの駅 エステフェイスライン＞

「素肌づくりの駅 エステフェイスライン」は、マッサージやシェービングなどを行っている女性限定のエステサロンである。見附市の「まちの駅 ほっとぴあ」でまちの駅の広告を見たことがきっかけで始められたそうである。

エステは敷居が高いと思われがちだが、そのイメージを払拭する気軽に寄ってもらえる駅を目指しているそうだ。

そして、こちらの駅のキャッチコピーは、「人が繋がるエステサロン」である。駅長さんは、地域の方々との交流やお店同士の連携をとても大切にしている方で、地域と繋がる機会を作るために、ボウリング大会や体験型のイベントなどを開催されていることから、こう名付けさせて頂いた。エステのメニューが豊富でリーズナブルな価格のため、女性の方は、訪れてみても良いかもしれない。ちなみに、夏の時期は、天然美白リンパエステがオススメで、シェービング＋リンパマッサージ＋パックのセットで紫外線からお肌を守ってくれるとのことです。

素肌作りの駅・ヒアリング

見附地域

素肌づくりの駅【エステフェイスライン】

まちの駅紹介

平成30年4月1日にまちの駅に登録したシェービングサロン　エステフェイスラインは主に、シェービングを行っています。（女性限定）

季節に合わせたメニューがあり、値段もリーズナブルなのでオススメです！

夏は、天然美白リンパエステがオススメで、シェービング+リンパマッサージ+パックのセットで紫外線からお肌を守ってくれます！！

お客様との距離が近く、お客様の声でメニューを決めています。

お客様との交流を深めるために年に数回イベントも行っています！

駅長さんのお話

お店が商店街から少し離れたところにあるため、地域の方との交流や、情報交換をするためにまちの駅に加入しました。

エステは敷居が高いと思われがちですが、そのイメージを払拭する気軽に寄ってもらえるお店を目指しています！！

学生のつぶやき

店内は可愛らしいつくりになっていて、入りやすい印象を受けました。店員のみなさんも明るくアットホームな雰囲気で、居心地の良いまちの駅でした。

エステのメニューが多く、気軽にやってみよう！と思えるものもあったので、個人的に行ってみたいと思っています。女性のみなさんはぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

16K028　小出　優花

Googleマップより

〒954-0057
新潟県見附市新町2-6-38
0258-62-5043
受付時間　9:00～17:30
定休日　　第3日曜日

平成30年度作成
加藤茉那　新保聡　鈴木絵莉香　小出優花

5.2　悠久祭

（1）概要

この企画は、平成 20 年度から始まっており、今年度で 11 年目である。平成 20 年度は、長岡市内の 29 のまちの駅を対象に行ったが、今年度は新潟県内の 129 駅のまちの駅のパネルを展示した。

（2）日時

平成 30 年 10 月 27 日（土）28 日（日）

（3）場所

長岡大学 216 教室

5.2.1　パネル展

（1）パネル準備

県内に 129 あるまちの駅のパネルを地域ごとに配置した。他にも、まちの駅の旗やモンゴルの紹介、今年度の活動の写真を準備した。

（2）パネル展当日

今年度の来場者数は、悪天候にも関わらず 200 人の来場者数を記録した。また室内が静かだったため、曲を流して活気をつけた。来場された方からは、「ここのお店が街の駅だったんですね」「今度近くにある場所なので寄ってみます」などの感想を頂けた。そして、大学のイベントコンテストでは、３位を受賞した。

5.2.2　まとめ

今年度は、人数が少ないため模擬店の出店をあきらめて、パネル展だけの開催となった。また、パネル紹介されているまちの駅の中には過年度に訪問した駅のものもあり、訪れたことがないため、説明が充分にできないところも生じた。これらの駅については、ネットで調査するなど、事前準備をしっかりする必要があると感じた。

当日の様子

６．地域活動への協力

6.1　まちの駅&どまいち　春の物産フェア

6.1.1　概要

「まちの駅&どまいち　春の物産フェア」は、まちの駅ネットワークみつけにて、平成30年3月11日に開催されたイベントである。

当日は、全国のまちの駅のネットワークを活かし、北海道から沖縄まで各地の名産品をネームブル見附で販売した。

今回、ゼミ生は物販の販売とガラポン抽選会の運営ボランティアとしてこのイベントに参加した。

（１）日時

平成30年3月11日（日）

（２）場所

ネーブル見附

（３）主催

まちの駅ネットワークみつけ

（４）参加者

〈学生参加者：学年は開催当時のものである〉

鯉江ゼミ	氏　　名
３年	加藤茉奈、新保聡、鈴木絵莉香、
２年	山城時生
４年	中曽根湧

〈当日参加したまちの駅　一覧〉

地区・県	
見附	抹茶の駅、（株）お菓子のマルシェ、そば一筋の駅、四季の駅、 パンの駅、（株）まちの駅ニット物語、まちなかの駅、 （有）ほっと一息 花みどりの里、（株）健康な住まいの駅、 カーライフステーション、（有）車の駅、学びの駅
福島	まちの駅 野馬追通り銘醸館、まちの駅 ネットワーク伊達、 まちの駅ネットワークふくしま
長岡	（株）まちの駅 菓子処 越後物語、あぶらげ巻寿司の駅、 （有）手作り漬物の駅
三条	はたけの駅

6.1.2 まとめ

物産販売、抽選会共に大盛況で、どちらもお客さんの笑顔が多くみられた。

会場設営、撤去、運営等は、各まちの駅の方や地域の方と連携して行うことによってスムーズに進行できた。

物産販売では、他県の特産品を販売することで、マーケティングの能力向上や多くのお客様の接客をすることで、コミュニケーション能力の向上が見て取れた。物品販売を行った学生からの感想としては、西日本の名物であるういろうとシークワーサージュースを販売した。ういろうがあまりお客様になじみがなかったためどう販売すればよいのかわからず苦労したが、シークワーサージュースと共に完売することができた。横では、福島の復興支援のための物産販売がされており、こっちまで元気を頂けるほどの活気があった。

ガラポン抽選会の感想としては、500 円分のガラポン抽選会引換券が 4 枚で 1 回だったので、引換券を数えるのが大変だったことと、お客様がピーク時は 30 人ほど来られた時に、1 人ずつ丁寧に素早くさばくことが難しく非常にいい経験になった。

物産販売の様子

ガラポン抽選会の様子

6.2　田麦山ロードレース

6.2.1　概要

川口田麦山の元田麦山小学校で行われているロードレースに参加した。今年度でラストランになり、第 33 回と続いてきたイベントの最後のレースに携わることができた。イベントに参加し、イベントを盛り上げることによって地域活性化につなげることができた。

（1）日時

平成 30 年 6 月 10 日（日）

（2）場所

川口田麦山（元田麦山小学校）

（3）参加者

鯉江ゼミ	氏　　名
４年	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香、ガントゥムル・ウーガンツェツェグ
３年	タミル・アリョーナー

（4）活動内容

活動内容は着順表の配布、走り終わった人の誘導を行った。

6.2.2　まとめ

田麦山ロードレースに初めて参加したが、今回がラストランとなった。ラストランということで沢山の参加者がいた。川口田麦山の地元の方や他のボランティアの方とコミュニケーションをとりながら運営を行った。また留学生もこのイベントに参加し、地元の方に声掛けやコミュニケーションを積極的にとっていた。

活動を通し、その地域に根付いていたイベントに学生が参加し、イベントを盛り上げることは地域活性化につながると感じた。また留学生がイベントに一緒に参加することで交流を深め、またコミュニケーション能力の向上ができたと感じた。

6.3　まちの駅 NW かぬまとの交流事業

6.3.1　概要

今年度初の活動として栃木県鹿沼市にあるまちの駅ネットワークの人々と長岡市越路町を巡る交流事業に参加した。この事業が行われた経緯は、越後長岡まちの駅ネットワークの会長である原田敏様が鹿沼市のまちの駅ネットワークに視察に訪れた際に良いおもてなしを受けた。そのことからお返しとして長岡花火を見せたいという想いから実現したそうである。越路町をおもてなしの舞台とした理由は、花火が見える特等席があったことである。

この交流事業には、越路のまちの駅ネットワークや長岡市民協働センターの方々が中心となっていた。

私たち学生は、昨年度製作した越路まちの駅マップで得た情報を基にボランティアガイドとして参加した。

（1）日時

平成 30 年８月２日（木）　13 時～17 時

（2）視察・交流（スケジュール）

13：00　ビューティーたちばな
13：30　松籟閣
14：15　酒蔵のある里あさひ山
14：30　長谷川邸
15：15　井口製材所
16：15　魚豊
18：00　花火会場

（3）参加学生

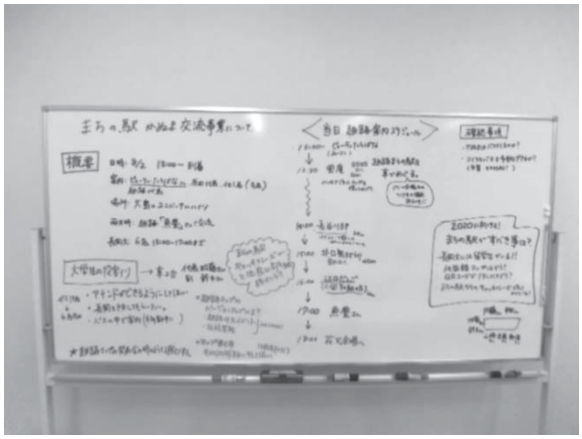
鯉江ゼミナール	氏　　名
４年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香
３年生	小出優花、近藤孝洋、山城時生

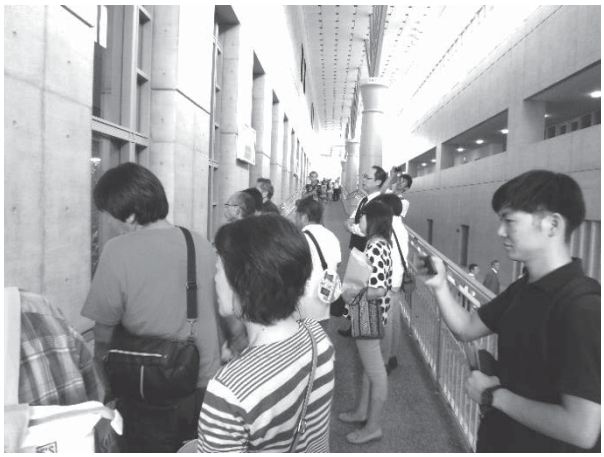
6.3.2　まとめ

おもてなしの準備をする事前の打ち合わせでは、越路町を巡るうえでの観光ルートを協働センターの方や越路のまちの駅の方々を交えて話し合った。学生たちが社会人と接するいい機会となったことや自身の考えをしっかりと伝えることの大切さを学ぶことが出来た。

当日は、鹿沼市のまちの駅の方々に越路の魅力や回りきれなかったまちの駅の紹介、私たち鯉江ゼミナールの活動内容などを移動のバスの中で説明した。これらに対して非常に興味を持っていただけた。後日談ではあるが長岡花火も大いに楽しんでもらえたそうだ。

学生の感想は、自分自身も越路を知ることが出来て良かったや、昨年度の活動が繋がり、県外のまちの駅ネットワークとの交流の機会を頂けて良い経験になったなどが出た。来年以降も県外のまちの駅ネットワークと積極的に関わる機会を増やしていきたい。





交流事業当日の様子

6.4　とうきび観音まつり

6.4.1 概要

鯉江ゼミナールでは、このお祭りに毎年参加させていただいており、今年度は4名の学生によって開催準備から様々なイベント運営のボランティア活動を行った。

（1）とうきび観音まつりの起源

今から200年ほど前の江戸末期に栃尾で厳しい食糧難が起こった。その際、観音寺の住職がとうきび（トウモロコシ）を配り作付けを教え広めた。このことを忘れないために聖観音の命日にあたる毎年８月 10 日に無病息災と家内安全の祈祷を行い、参拝者にトウモロコシを配ることがこのお祭りの由来である。

（2）日時

平成30年８月10日（金）

（3）会場

栃尾谷内通り

（4）主催

谷内１丁目商栄会、谷内２丁目商友会、とちおにぎわい委員会、栃尾商工会

（5）依頼元

広野茶店（日本茶の駅）

（6）参加学生

鯉江ゼミ	氏　　名
４年	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香
３年	小出優花

（7）スケジュール

14：00　「日本茶の駅」に集合
　　よってげ場から机、椅子、テントを各イベントの場所へ配置
　　責任者の指示で各イベントの準備を始める
15：00　谷内通りを通行止めにする
17：00　お祭りスタート
20：30　終了、後片付け、反省会

（8）イベントの役割

イ　ベ　ン　ト	担　当　者
１円ゆらゆらゲーム	鈴木絵莉香、小出優花
スーパーボールすくい	新保聡
バルンアート	加藤茉那

6.4.2 主な活動内容

（1） １円ゆらゆらゲーム

水の入った水槽の中に器が設置されている。その水の上から器にめがけて１円玉をゆっくり入れ、ゆらゆらと落ちる１円玉を見事器に入れることができたら景品を貰うことができるゲームである。１回のゲームに 100 円または事前に商店街で 500 円分の買い物をすると貰える引換券５枚を要する。器に入ったら景品を２つ、それ以外には１つ差し上げていた。客様が多かったためすぐに景品がなくなってしまったが、景品を他のイベント場所からもらうことで補った。親子のお客様がとても多く賑やかだった。

（2）スーパーボールすくい

金魚すくいと同じ要領でポイを使い大小様々なスーパーボールを小さめのお椀にすくい入れ、お椀いっぱいになるまで遊べるゲームである。100 円または引換券５枚で１回遊ぶことができる。成功しなかった子には、スーパーボールを２、３個詰めた袋を渡した。

お祭が始まると同時にたくさんの子どもたちが集まり約３時間で完売した。

（3）バルンアート

よくイベントなどで使用される普通サイズの風船を膨らませ、それに色とりどりな油性ペンで様々なキャラクターのイラストを描いたものを幼い子どもを中心に配付を行った。さらに、長い風船を膨らませて捻りを加え、犬やネズミ、剣などの形に変形させたものを創り配布を行った。

子ども連れの親子が多く有名なキャラクターのイラストを風船に描いてあげるととても喜ばれた。

6.4.3 参加目的

栃尾のまちの駅「日本茶の駅」である広野茶店の広野さんからお祭で商店街を盛り上げ、地域活性化を図るために協力してほしいという依頼を受け参加した。その目的は、お祭りに運営側から盛り上げ地域を活性化させることと、お祭りを通して栃尾の方々と交流することにより学生の社会人基礎力の向上を図ることである。

6.4.4 まとめ

今年度のとうきび観音まつりは当日準備から片付け、その後の反省会まで参加した。前年度より参加学生が減ってしまったが、栃尾の方々と助け合いながら無事に行うことができた。このイベントでは学生が運営に携わることで、お祭りを盛り上げ栃尾地域の交流人口の増加に寄与出来ていると認識することができた。学生が楽しみながらイベントに参加することにより、子供達やお客様も笑顔で楽しんでくれていたと感じた。このことにより、自分達自身が楽しんで行うことで回りも自然と楽しませることができたのではないかと考える。その理由は、毎年継続して学生が参加することで、その地域の人が喜んでくれているからである。谷内商店街の方からは毎年助かっている、また来てほしいと言って頂けた。こうして学生が参加することで運営側にもお客様側にもいい影響があるのではないかと考える。また栃尾地域は高齢化が進み、このお祭りの運営が難しくなってきている。そこで学生が活動に協力することにより歴史のあるイベントを絶やさないようにすることが、高齢化対策にもつながっていると感じる。来年度も継続して活動に参加し、地域の交流人口の増加や地域活性化に貢献していきたい。

スーパーボールすくい

１円ゆらゆらゲーム

玉こんにゃく

6.5　オール新潟まちの駅交流会

6.5.1　概要

（１）目的

県内のまちの駅が一堂に会し、互いに情報交換をすることと、交流を深めることである。

（２）日時

９月 20 日（木）　16 時～19 時 30 分

（３）スケジュール

15：30　パティオにいがた「川の駅　パティオにいがた」集合・受付
16：00　市民ガイドグループ「なびらーず」のガイドによるまち歩き（戊辰戦争の激震地今巡り）
17：00　自由時間（パティオにいがた見学）
17：30　農家レストラン「もみの樹」にて交流会
19：30　終了

（４）参加学生

鯉江ゼミナール	氏　　名
４年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香

6.5.2　まとめ

戊辰戦争に所縁のある今町を見附のガイドグループである「なびらーず」の方々に案内してもらいながら巡った。当時の弾痕が残った石碑や籠城戦をしたお寺などが残っており、とても感慨深い気持ちで巡ることが出来た。

農家レストラン「もみの樹」での交流会では、県内から参加した多くのまちの駅の駅長さんたちとお話しをする機会があった。中でも印象的だったのがまちの駅東京事務局長の橋本様との会話の中でお聞きした、今まちの駅がどんどん増えているということである。私たちは新潟県内のまちの駅の数しか把握できていなかったということから県外のまちの駅に目を向けるための良い会話だったと感じた。

にいがたパティオ内にある農家レストラン「もみの樹」
で行われた交流会の様子

6.6 ハロウィンみつけ

6.6.1　概要

ハロウィンみつけは見附市中央公民館をメイン会場とし、平成 30 年 10 月 13 日（土）に開催されたイベントである。

今年度は当日ボランティアとして参加し、イベントを盛り上げることによって地域活性化につなげることができた。

（1）日時

平成 30 年 10 月 31 日（土）

（2）会場

メイン会場…見附市中央公民館

周辺エリア…本町中央、本町、新町、商店街エリア及び周辺

（3）主催

まちなか東コミュニティ、まちなか盛り上げ部会

（4）参加学生

鯉江ゼミ	氏　　名
4年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香、ガントゥムル・ウーガンツェツェグ フレルバートル・ガンチメグ
3年生	小出優花、近藤孝洋、山城時生 タミル・アリョーナー

6.6.2　主な活動内容

（1）じゃんけん大会

見附市中央公民館大ホールで開催され、子どもから大人まで参加できるイベントである。司会の方と参加者全員でじゃんけんをし、勝敗を決める。勝ち残った三人に豪華なプレゼントが用意された。

（2）仮装コンテスト

子どもから大人まで自分の好きな仮装をして、中央公民館大ホールのステージ上にてアピールポイントを含めたパフォーマンスを行った。入賞者には豪華なプレゼントが用意された。イベントに参加した学生全員もこの仮装コンテストに出場した。今年度は留学生が母国の指遊びを披露してくれた。パフォーマンスとして他の出場者の方も指遊びを体験してもらうことができた。指遊びとは５本の指を使い勝敗を決めるじゃんけんのような遊びである。まず初めに指遊びの説明をした。隣同士で実践してもらい勝った方がステージに上がってもらう。その中から最後の一人になるまで勝ち抜き戦を行った。

（３）仮装パレード

仮装をした子どもたちが、イベントに協力する商店街の各店に向かい、「トリック・オア・トリート」の言葉で、各協力店からお菓子をもらうイベントである。

（４）はよこいて～見附マルシェ

ハンドメイド部門と飲食部門があり、それぞれ中央公民館の中ホールと駐車場で開催された。ハンドメイド部門では、手作りの雑貨や衣服、アクセサリーが販売された。

飲食部門では、たこ焼きやたこせん、オーガニックカレーやハロウィン使用のクレープなど様々なキッチンカーが設置された。食べることのできるスペースも設けられ、多くの来場者が利用していた。

6.6.3　まとめ

今年度は当日ボランティアとして参加させてもらった。昨年度と同様、会場設営、ステージの飾りつけ、そして後片付けまで行った。今年度は留学生も参加し飾りつけなどのアイディアを出してくれた。仮装コンテストでは昨年度の反省としてパフォーマンスの準備不足が上がっていた。それを改善するために今年度は留学生の母国の子ども達が遊んでいるゲームを紹介するパフォーマンスできないか、という意見が上がり、指遊びを披露することになった。留学生の方たちは指遊びを分かりやすく説明できるようにうちわに絵を貼ったものを作り、勝った人への景品も用意してくれた。このことから昨年度の反省点の準備不足は改善できたと考える。当日指遊びを披露し、会場全員が参加できるパフォーマンスだったのでみんなが楽しめて盛り上がるものになったのではないかと考える。結果として特別賞を受賞することができとてもいい経験だった。学生が参加することで地域を盛り上げることが出来たと実感できるイベントとなった。

仮装コンテストの様子

パフォーマンスの様子

6.7　ハロウィーン いままち

6.7.1　概要

ハロウィーンいままちは見附市今町商店街を会場として平成 30 年 10 月 20 日に開催されたイベントである。

当日、学生は、見附市のマスコットキャラクター「ミッケ」の Doller、「ミッケ」の警備、長～いボウリングチャレンジの運営、野外ライブの運営、（株）ムサシの駐車場警備を行った。

（1）日時

平成 30 年 10 月 20 日（土）

（2）場所

今町商店街

（3）参加者

	氏名
鯉江ゼミナール	加藤茉奈、新保聡、鈴木絵莉香、小出優花、近藤孝洋、山城時生
本学学生	安達舜一

6.7.2　主な活動内容

「ハロウィン　いままち」のボランティアの内容は以下の通りである

（1）見附市のマスコットキャラクター「ミッケ」の警備

ハロ婚神前式と仮装コンテストの時間に、ミッケの警備を行った。

ミッケは子供たちに人気があり会場に着く前から子供たちが寄って来た。ミッケは視界が悪く、前へ進むのに苦労したようだった。しっかりと先導し、転ばずに会場までたどり着くことができ、市民の方々がミッケとの触れ合いイベントでは、興奮する子供の静止を心がけ、子供たちに怪我を与えることなく触れ合うことができた。ハロ婚神前式では、ファンの電源が落ち、お客さんの前でミッケがしぼむアクシデントがあったが、しぼみ切る前に対応でき事なきを得た。

（2）見附市のマスコットキャラクター「ミッケ」の Doller

ハロ婚神前式と仮装コンテストの時間に、ミッケの Doller を行った。

Doller をやる学生が初めてだったためにミッケの動きを想像しながら行動するのは非常に難しく、今町市民の方々のミッケを壊さないよう心掛け活動を行った。子供たちと触れ合う際は、子供達が楽しんでもらえるよう、要求には答えるように行動した。子供一人一人の要求に答えながら行動するのは苦労したが、笑いながらミッケに接してくれたのでこちらも楽しみながら活動が行えた。

（３）長～いボウリングチャレンジの運営

北越銀行の駐車場にボウリングの長いレーンを設置し、そこからお客さんに球を投げてもらい、ストライクを出してもらうゲームである。ストライクを出すとお菓子の詰め合わせがもらえた。当日学生は倒れたピンを直す係と球を投げる人のところまで持っていってボウリングの説明をする係を行った。

1 時ごろからお客さんが多く来て下さり、休む暇が無く大変だったが、ストライクを出して喜んでくれるお子さんや、気にいって何度も来てくれるお子さんがおり、疲れが飛ぶくらい楽しめた。

（４）野外ライブの運営

主演者の警備、会場設営を行った。

（５）（株）ムサシの駐車場警備

（株）ムサシにて、駐車場警備を行った。

6.7.3　まとめ

当日、急な大雨に見舞われ、イベントが開催できるか不安な天候であったが無事開催することができた。

「ハロウィーン いままち」では、各イベントで見附の市民の方々と交流でき参加した学生は皆楽しみながらボランティアを行った。

しかし、学生をボランティアとして起用するのが「ハロウィーン いままち」では久しぶりだったために、当日まで自分たちが行うボランティア内容が把握出来ておらず、混乱する学生がいた。この反省を生かし来年度では、しっかりとした打ち合わせを行い、このようなことが無いよう心掛けてもらいたい。

当日の様子

7. 中間発表会・成果発表会

7.1　中間発表会

（1）日時

平成 30 年 11 月 5 日(月)　14：40～16：30

（2）場所

長岡大学　第５会議室

（3）内容

①　発表

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

②　ご意見　感想

長岡市市民協働推進部市民協働課　岩嶋雄人 氏　　半間麻央 氏

全国まちの駅連絡協議会　中川一男 氏

長岡大学　鯉江康正 教授

長岡大学鯉江ゼミナール卒業生　中曽根 湧 氏

（4）アドバイザーおよび発表学生

＜アドバイザー＞

長岡市市民協働推進部市民協働課　岩嶋雄人 氏

全国まちの駅連絡協議会　中川一男 氏

＜発表学生＞

４年生：加藤茉那　　新保　聡　　鈴木絵莉香

３年生：小出優花　　近藤孝洋　　山城時生

（5）開催目的

成果発表会に向けての発表練習と見直しを行うためにアドバイザーの方々に意見を聞く。

（6）感想

中間発表会は、時間を気にせず今年行った活動の全てを発表した。活動報告を行って感想を述べると楽しかった等の感想が多く、その発表では物足りないとアドバイザーの方々から指摘を頂いた。活動を通して私たちが成長できたことや、感じたことを発表の中に入れていなかったためで、全く違う視点から発表スライドを作成し直した。また、中間発表会の後に全国大会への参加があり、その場でも発表の機会が与えられていたため、その発表スライドを作るうえでもとても参考となる意見をたくさん頂けることができ、今後の発表会に対する意識の向上を図ることができたように感じた。

7.2　成果発表会

（１）日時

平成 30 年 12 月 1 日(土)　13：00～

（２）会場

ホテルニューオータニ長岡　ＮＣホール

（３）内容

①　発表

「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

②　ご意見　感想

長岡市市民協働推進部市民協働課　岩嶋雄人 氏

全国まちの駅連絡協議会　中川一男 氏

（４）アドバイザーおよび発表学生

＜アドバイザー＞

長岡市市民協働推進部市民協働課　岩嶋雄人 氏

全国まちの駅連絡協議会　中川一男 氏

＜発表学生＞

４年生：加藤茉那　　新保　聡　　鈴木絵莉香

３年生：小出優花　　近藤孝洋　　山城時生

（５）開催目的

地域活性化プログラムに参加するゼミナール(全６ゼミナール)が一年間行ってきた活動の成果を 13 分間で発表する。

（６）感想

今年一年の活動内容の報告と今後についての提案を発表内で行った。中間発表会では約 30 分近くあった発表を 13 分という短い時間に短縮して発表を行った。私たちは多くの活動を行っているため、そのすべてを発表するとなると時間が沢山かかってしまう。すべてを発表できないことは悔しさもあるが、その中でも私たちの活動成果を発表することができた良い発表だったと感じる。中間発表で指摘された楽しかった等の感想を一切言わず、そこから得たことや気づき、改善などを発表できたため、私たちのゼミナールのアドバイザーだけでなく、他のゼミナールのアドバイザーの方々からも好評を得ることができた。

中間発表会での指摘をしっかりと改善することもでき、発表自体にも動きを付け高評価を頂くことができたことは、私たちの自信に繋がったと感じたよい経験だった。発表を行って他のゼミには絶対に負けてないと胸を張って言えるような発表だった。成果発表会後の打ち上げでは、鯉江先生からもお褒めの言葉を頂き、発表を見ていた留学生からもお褒めの言葉を頂き、最高の雰囲気で楽しく反省会で交流することができた。

7.3　まとめ

この章では中間発表会と成果発表会について述べてきた。中間発表会では、今年行った活動の全ての発表を行った。最初の発表は楽しかった等の感想が多く、改善点について指摘される部分がとても多かった。

成果発表会は、指摘された感想の部分を全部なくし、気づきや提案を含む発表に変更した。また、30 分近い発表スライドを 13 分に縮める作業はとても難しく、すべてを発表したい、聞いてもらいたいと思っていたためとても大変な作業となった。成果発表会は学校ではなくホテルのホールを使っての発表であったため、学生は緊張していたが、練習も沢山行い、今までたくさん活動を行ってきたという自信もあったため堂々と発表することができた。発表後の質疑応答の際も何を聞かれるのか全く分かっていなかったが、何も言えずに固まってしまうことはなく、皆堂々を質疑に対して応答できていたように感じる。今回の活動を通して、私たちも一年間の振り返りができたと共に、聞いてくださった方々に「まちの駅」のことを知っていただくことができたと感じる。来年の活動報告も行ってきたことを、自信をもって発表していきたいと思う。

８．越後ながおかまちの駅ネットワーク　忘年会

（１）日時

平成 30 年 12 月 21 日(金)　18：30～21：30

（２）場所

アオーレ長岡　西棟３階　会議室Ｄ

（３）内容

①　ごあいさつ・・・まちの駅　酒蔵のある里：【駅長】平田　誠　氏

②　ごあいさつ（乾杯）・・・手作り漬物の駅：【駅長】内藤　敦　氏

③　スライド発表

鯉江ゼミナール：「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！

（４）参加者

＜事務局・まちの駅関係者＞

・越後ながおかまちの駅ネットワーク　　岩嶋雄人 氏　　髙橋秀一　氏
　　半間麻央　氏　　太田道子 氏

・全国まちの駅連絡協議会　中川一男 氏

・まちの駅　酒蔵のある里【駅長】　平田　誠 氏

・手作り漬物の駅【駅長】　内藤　敦 氏　　（奥様）

・ほたる焼きとせんべい薪ストーブの駅【駅長】　吉岡和男 氏

・まちの駅　森の仲人「千の森」【駅長】　青柳忠浩 氏

・まちの駅　たちばな【駅長】　金井ふく子 氏

・まちの駅　和紙の駅【駅長】　今井千尋 氏

・長岡大学　鯉江ゼミナール　卒業生　　中曽根　湧 氏

＜教職員参加者＞

・長岡大学：鯉江康正 教授

＜学生参加者＞

・４年生：加藤茉那　　新保　聡　　鈴木絵莉香

・３年生：小出優花　　近藤孝洋　　山城時生

（５）開催目的

今年度の活動を労うと共に、今後の活動をスムーズに行えるように交流を行うことを目的として開催された。

（６）参加学生の感想

越路の方や、成果発表会を見に来られなかった方に発表を聞いていただくことができて良かった。発表の中の学生からの提案が予想以上に反響が大きく嬉しかった。この提案を来年度に活かして欲しい。

越路の方だけでなく、今年度は小国のまちの駅の参加者もおり、これからも色々なまちの駅の方を巻き込んでいってほしいと感じた。卒業生にも発表を聞いてもらうことができ、

しっかりとした評価を頂けて嬉しかった。ゼミの中間発表会を、以前開催していたように、まちの駅の駅長さんを呼び交流会形式にすることを再開してほしいと感じた。

初めて忘年会に参加して、まちの駅の方々や、事務局の方々とまちの駅について踏み込んだ話をすることができた。皆さんの思いなども感じることができ、とても貴重な経験になった。

今後の活動について等の意見も出たため、受け継いでいかなくてはいけないこと、改善していくことなども取り入れて、今後の活動に繋げていきたいと感じた。

（7）まとめ

この章では越後ながおかまちの駅ネットワーク忘年会について述べてきた。今年一年の活動を労い来年の活動をもっと円滑に進めていくことが目的である。昨年度越路のマップ制作で大変お世話になった越路のまちの駅の駅長さんや、今年のラジオ番組で取材を行った駅長さんなどが多く参加した。私たちの活動は、実際にヒアリングを行うため交流を深めることはできるが、今回はお酒を交えての交流だったため、皆で和気あいあいと交流を深めることができたように感じる。学生にとって大人とお酒を飲む機会はなかなかないため、今回の忘年会は貴重な体験となった。

成果発表会に来てくださった方から、成果発表会の発表を褒めて頂き、来られなかったまちの駅の方々に是非発表を聞かせてあげてほしいという強い要望を受け、成果発表会で発表したスライドを発表した。今回の発表は、私たちが一年間活動を行ってきて感じたこと、まちの駅への今後の提案を行った。発表を聞いたまちの駅の方々は、私たちの発表を真摯に受け止めてくださり、来年の活動に繋げていきたいと前向きな意見を頂くことができた。また今年は私たちゼミナールのアドバイザーをしてくださっている全国まちの駅連絡協議会の中川一男氏も忘年会に参加してくださり、見附地域のまちの駅のことなども話して頂き、互いに意識を高めることができたと感じた。

発表の様子

忘年会の様子

９．ウェブページの更新

今年度も、新しく開設されたまちの駅の紹介パネルの作成およびパネルの更新を行った。このページは、長岡大学のホームページにリンクが繋がれているのでホームページにある「まちの駅　長岡大学」内の「新潟まちの駅紹介」から飛ぶことができる。

そこでは、鯉江ゼミの平成 19 年度からの活動報告書および県内に 129 駅あるまちの駅の紹介パネルを閲覧できる。是非一度、ご覧になって頂きたい。

長岡大学（ＨＰ）　https://www.nagaokauniv.ac.jp/gp_c/zemi25-01/index.html

掲載してある各項目の概要は以下のとおりである。

＜まちの駅とは＞

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しいまちの駅の情報が得られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

＜県内のまちの駅リンク＞

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけ」へのリンク機能が付いている。

＜これまでの活動内容＞

各年度活動報告書に、新たに昨年度の鯉江ゼミナールの長岡大学地域活性化プログラム報告書を追加した。

＜まちの駅一覧＞

今までに作成したパネルに加え、今年度作成したまちの駅のパネルの追加と更新を行った。ここでは計 129 駅の新潟県内のまちの駅のパネルを紹介している。

地域ごとの検索ボタンから下にあるまちの駅のリストに飛べるようになっている。

今年度新たに追加・更新まちの駅が一目でわかるように、それらには「更新」「NEW」と名付けている。

長岡大学地域活性化プログラム

作成日：2011/1/18
更新日：2018/1/11

まちの駅の紹介ページのｔｏｐ画面

10. とりまとめ

以下、今年度の活動・研究の結果明らかになった点をまとめ、今後の課題を整理する。今年度の活動・研究のテーマは『「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！』である。

今年度のまちの駅全国大会は 11 月 9 日と 10 日に福島県の会津若松市で開催された。1 日目のテーマ別分科会の前に、鯉江ゼミでの今までの研究の成果とまちの駅に対する感想を発表した。その発表をまちの駅連絡協議会の中川さんから褒めて頂いたことが嬉しかった。ディスカッションでは、まちの駅に足りない部分や今後の課題点を見つけることができた良い経験の場になった。また、大交流会や２日目のエクスカーションを通して、全国のまちの駅の駅長さんや関係者の方々と親睦を深めることができた。短い時間ではあったが、全国のまちの駅の現状や取り組みを知り、様々な方と交流することができ、非常に有意義な２日間であった。今回の全国大会で学んだことを今後の調査研究活動に活かしていきたいと考える。来年の静岡県焼津市で行われる大会にも是非参加し、地域の活性化に繋げたい。

FM ながおかラジオ番組は、学生が長岡市内 11 地域の越後まちの駅ネットワーク加盟店の幹事駅 11 駅の紹介を、５分間にまとめたものである。この事業は、①「まちの駅」の認知度向上、と共に、②身近で立ち寄りやすいコミュニティの場であることを定着させる、③駅関係者への取材を通して、「まちの駅」としての個性や魅力を改めて認識する。④駅同士の連携を図り、今後のコラボレーション企画への機運醸成に繋げる、ことを目的としている。番組名は「長大生と行く！　まちの駅ヒアリング GO！！」である。番組内容は、ヒアリングで得た情報を基に学生同士の掛け合いの中でそのまちの駅が行っていること、駅長さんの人柄を紹介し、駅長さんからの 1 分間 PR を頂いた後に、学生が考えたそのまちの駅のキャッチコピーを紹介していくものである。放送までの流れは、①まず学生が取材先にアポイントメントを取る、②そしてヒアリングをし、放送内容を考える、③最後に、音源を取り FM ながおかに送付する、というものである。

ラジオ番組作成の感想として、①声だけで聴いている方にまちの駅の魅力を伝える難しさを感じた、②初めて訪れた駅に取材を行うことで、まちの駅についての知識を増やすことが出来た、などが挙がった。また、ラジオ作成が交流人口の増加に寄与できているのか調査することが必要であるという意見も学生からでた。来年度、今回取材を行った 11 駅にアンケート調査を行いたいと考えている。

今年度の「まちの駅」のヒアリング調査・パネル作成は、更新したパネルが２つ・新規作成したパネルが５つである。ヒアリング調査は、ながおか市民協働センターからの情報提供から始まった。その後、アポイントメントを取り、ヒアリングに臨んだ。パネル作成では、ヒアリングで得た情報をメンバー間で整理し、パネルを作成した。そして、完成したパネルをメールでお送りし、確認していただいた。その後、修正点があれば修正し、再度メールでお送りし、了解を得たら完成となった。

悠久祭は、新潟県内にある 129 のまちの駅のパネルを展示した。悪天候にも関わらず 200 人の来場者を記録した。これからもまちの駅情報発信活動を続けていき、新しいことも取り組んで行きたい。

地域活動への参加では、まちの駅を通じて「まちの駅＆どまいち　春の物産フェア」、

「第 33 回 田麦山ロードレース」、「まちの駅 NW かぬまとの交流事業」、「とうきび観音祭り」、「ハロウィンみつけ・見附マルシェ」、「ハロウィーンいままち」に参加した。地位活動に参加することにより、地域の人々と交流ができ学生自身も楽しみながら交流ができた。毎年参加している活動からは、地域の人からも喜んでいただき、主催されている方達からは「毎年助かっている」、「また来てほしい」という声頂くことができた。次年度もこのような声が頂けるよう今年度の活動を振り返り、地域活性化につながるよう活動してもらいたい。

ホームページの更新では、パネルを紹介しているホームページの内容と今年度変更した更新点について述べた。

今年度は、鯉江先生が怪我のため３カ月不在となったため、前期のゼミナールの活動が滞ってしまった。学生自身も就職活動など、各々予定が合わないこともありまとまりがなかったように感じる。先生の復帰後、学生たちの意識も高まり、まとまりが生まれた。それらの活動の成果を様々な場で発表し、感じたことや、それを踏まえた提案をした。結果多くの好評を頂いた。来年度も多くの活動に参加し、感じたことなどを素直に伝えていってほしい。

ゼミの先輩から受け継いだ、「自分たちがこれまでやってきた活動に自信を持ち、それを伝える」ことが大切で、「地域活性化活動はやらされているのではなく自分たちから楽しんでやる」ことであるという伝統を理解できたような気がすることを報告して、本活動報告書の締めと、いたします。

＜　謝　辞　＞

最後に、お忙しい中、私たちの取材に全面協力してくださった「長岡市市民協働推進部市民協働課」の岩嶋様、「全国まちの駅連絡協議会」の中川様を始め、ヒアリング、パネル作成に協力いただきました地域の皆様、ラジオ番組の作成に協力いただきました長岡市市民協働センターの職員の皆様、FM ながおかの職員の皆様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートや報告書の作成などでいろいろとご協力していただいた「地域連携研究センター」の職員の方々にもお礼を申し上げます。とりわけ、今年度で退職される山田さんには、平成 19 年度からゼミがお世話になり、本当にありがとうございました。

（以上）

＜参考文献＞

文献１：長岡大学『平成 28 年度　学生による地域活性化プログラム活動報告書』平成 29 年３月

文献２：長岡大学『平成 29 年度　学生による地域活性化プログラム活動報告書』平成 30 年 3 月

文献３：全国まちの駅連絡協議会『第 20 回まちの駅全国大会開催記念　まちの駅足かけ 20 年のあゆみ』平成 29 年 9 月

文献４：全国まちの駅連絡協議会　まちの駅（http://www.matinoeki.com/）平成 30 年 12　月閲覧

文献５：国土交通省　「道路：道の駅案内－国土交通省」国土交通省（http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/history.html）平成 30 年 12 月閲覧

長岡大学　学生による地域活性化プログラム
各プロジェクト報告書

１．長岡の誇れる地域資源を若人に広めよう！
　　～長岡版「工場の祭典」の開催を～
　　栗井英大ゼミナール

２．グラスルーツグローバリゼーション
　　－草の根・地域からの地球一体化・人類統合の推進－
　　広田秀樹ゼミナール

３．「まちの駅」から地域の魅力を発信し、交流人口の増加に寄与したい！
　　鯉江康正ゼミナール

４．酒粕で長岡を盛り上げよう！
　　－カスを価値に！－
　　權　五景（樂九）ゼミナール（１）

５．商いを通じて学ぶ会計と経営戦略
　　～地域に貢献する商品開発を通じて～
　　平田沙織ゼミナール

６．十分杯で長岡を盛り上げよう！
　　－世界と長岡の繋がり－
　　權　五景（樂九）ゼミナール（２）

７．地元企業の働き方を知る
　　鈴木章浩ゼミナール

平成30年度　学生による地域活性化プログラム
鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】　平成31年３月18日
【発行人】　村山　光博
【発　行】　長岡大学　地域活性化プログラム推進室
〒940－0828　新潟県長岡市御山町80-8
ＴＥＬ　0258-39-1600（代）
ＦＡＸ　0258-39-9566
http://www.nagaokauniv.ac.jp/